



2022年4月 診療カレンダー

住所:東京都中央区日本橋大伝馬町13-8  
メディカルプライム日本橋小伝馬町3階  
TEL:03-3639-3110 FAX:03-3639-3112

2022年5月 診療カレンダー

Calendar for April 2022 with days of the week and dates.

Calendar for May 2022 with days of the week and dates.



今年度も  
よろしく  
お願いいたします

ホームページ  
院長ブログ公開中

休診日 午後休診 18時最終受付

Table of clinic hours for general and emergency services.

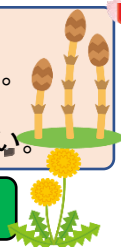
「今月の言葉」

花が咲く場所には希望も咲く  
Where flowers bloom so does hope  
～レディ・バード・ジョンソン～



<お知らせ>

新型コロナワクチン追加接種行なっております。  
中央区の新型コロナワクチン特設サイト、  
またはTEL0120-421-062よりお申し込みください。



研修医時代の思い出

4月、心待ちにした桜の開花とともに新年度を迎えました。皆さま、いかがお過ごしでしょうか？4月といえば進学や就職など新しい生活のスタートとなる方も多いと思います。

私は25年以上前のことになりますが、大学を卒業し、4月から東大の内科の研修医として勤務することになり、札幌から東京の根津へ引っ越してきました。学外からであったため、同期の研修医の中にも先輩の先生方にも知り合いはひとりもおらず、かなり心細いスタートだったのを覚えています。

さて、大学を卒業したての研修医には「中ベン」と呼ばれる卒業後3-4年目の医師が指導医としてつくことになっていました。(ちなみに上級医のことはドイツ語でオーベン(Oben)というのですが、このオーベンを「大ベン」と日本語読みをして、研修医のことを小(子)ベン、若い指導医のことを中ベンという呼び方を大学病院ではしていました。)

私の中ベンはN先生ということが決まっていたのですが、N先生は私が東大病院にきたころはまだ外病院から大学へは戻っておらず、はじめの1週間は中ベンのいない状態で研修医生活が始まりました。

N先生ですが、通常は卒業後3-4年目で外病院から大学に帰ってくるのですが、N先生はどうやら6-7年目らしいということを聞きました。さらにその外病院が救急救命センターで、N先生を知っている他の先輩方からは「え～！N先生が中ベンか？齋藤先生は大変だね！」などと言われて「N先生は怖い先生なのか？怒られたらどうしよう」と内心不安でした。

そのN先生がついに大学病院へ戻ってこられました。ちょっと目が鋭く、ぱっと見は厳しい風貌でしたが(失礼！)、話をしてみると怖いどころか、とても温厚で良い先生だということがすぐにわかりました。N先生は東大の工学部を卒業後、東大理Ⅲに入ったという秀才で、いうまでもなく非常に優秀でしたが、それだけでなく大変面倒見が良く、非常に熱心な良い先生でした。当時、研修医は毎日夜中の12時過ぎまで仕事をしていることが常で、とくに教授のプレゼンテーションの前日などは夜中の2時、3時まで資料作りをしていました。面倒見のよい中ベンの先生方でも、さすがにそこまで残って資料作りにつき合ってくれる先生はほとんどいませんでした。

そのなかで、ただN先生だけはどんなに夜遅くても必ず一緒に残って手伝ってくれました。二人ともあまりに眠くなると「よし、一緒にコーヒーを飲みに行こう」と地下の自動販売機に行き、コーヒーを飲んでくれた。並んでベンチに座ってコーヒーを飲んだりしたのも、良い思い出です。

N先生は「手技などは見ながら覚えるというのは、良くない」と、エコーや中心静脈の挿入方法などについて、紙に書いて説明し、わからないことも丁寧に教えてくださいました。いまでもその当時のノートは大事にしています。

当時研修医は朝一番に自分の担当の患者さんを回診して、必要であれば採血をするというのが日課でした。その回診もN先生はついてきて一緒にまわりました。回診が終わると地下の売店でサンドイッチを買って食べるというのも毎朝のルーティンでした。

N先生だけでなく、東大の第4内科の先輩方はとても親切で良い先生が多かったです。腎臓内科の中ベンのS先生もいつも遅くまで働くとても優秀な先生で、患者さんや研修医に接する態度はいつも誠実で素晴らしい人柄でした。

助教授の先生は毎週土曜日に全員の患者さんを研修医と一緒に全員診察をしてまわって所見の取り方などを丁寧に説明してくれましたし、ほかの科の先生方も連日、夜に講義をしてくれました。肝心の研修医が過労と寝不足でヘトヘトで、講義中に居眠りしてしまうこともありました。申し訳なかったです。

ところで、話は変わって、今回のウクライナ侵攻のニュースで、ヴァイオリニストのミルシテインのことを思い出しました。実はN先生に夜中にしばしば車で家まで送っていただいたことがあり、その車の中で流れていたのがミルシテインのヴァイオリンだったのです。ミルシテインは20世紀最高のヴァイオリニストだと思いますが、彼が生まれたのは現在のウクライナのオデッサなのです。調べてみるとミルシテインのほかにもウクライナには多くの名演奏家が生まれています。ヴァイオリニストではダヴィッド・オイストラフ、レオニード・コーガン、アイザック・スターン、ピアニストではウラディミール・ホロヴィッツ、エミール・ギレリス、スヴャトスラフ・リヒテルなど。作曲家ではムソルグスキーやプロコフィエフなどもウクライナの生まれなのです。ウクライナには昔から豊かな芸術や音楽文化が根付いているということでしょう。ムソルグスキーの「展覧会の絵」にはキエフの大門という曲もあります。芸術の都が戦場となり、悪夢としか言いようのないこの戦争の惨禍、言葉にできないほど胸が痛みます。

さて、N先生や多くの先生方から教えていただいたこと、患者さんへの接し方、勉強を続けることの大切さ、真摯な姿勢など、感銘を受けたことはいまでも自分の心の中心にあります。N先生との出会いがなかったら今の自分がいなるとさえ思います。人に教えるということはそれだけ重要なことです。皆さんのなかには、仕事上の先輩として新人に指導する方もおられると思いますが、是非温かく、愛情をもって教えていただきたいと思っています。

文責 齋藤 幹

